

改訂版

魚沼コシヒカリ物語

－なぜ！コシヒカリはおいしいのか

広瀬地区農家の米づくりの
原点を分析－

目 次

はじめに	－P 2
1. 農業をめぐる農政の課題	－P 2
2. コメづくりの再生産の条件	－P 3
※おコメは高いのでしょうか？	
3. 広瀬地区の地形と風土	－P 4
4. 広瀬地区の土壌とコシヒカリ	－P 6
5. 特別栽培米の施肥設計	－P 8
6. 魚沼コシヒカリのうまい（良食味）6つの要因	－P 1 1
7. 環境にやさしい安全な低農薬農業	－P 1 2
8. 無農薬、有機栽培の表示は適切か	－P 1 4
9. 消費者へのメッセージ	－P 1 5

平成 9年1月1日発行
平成10年1月1日改訂
広瀬地区農業協同組合
特別栽培米研究会

○監 修

- ・ 特別栽培米生産者協議会
会 長 金 井 長 一
- ・ 広瀬地区農業協同組合
経済課 営農担当課長
星 新 治

○執 筆

- ・ 広瀬地区農業協同組合
営農課 営農指導員
桜 井 充
- ・ 広瀬地区農業協同組合
理 事 覺 張 義 博

○協力農場

- ・ 北魚沼郡広神村大字長堀新田
ガク・グリーンファーム広瀬

○データ提供

- ・ 新潟県経済連
- ・ 北魚沼農業改良普及センター
- ・ 日本共産党衆議院議員
農林水産委員 藤 田 ス ミ
- ・ ガク・グリーンファーム広瀬
代 表 覺 張 義 博

はじめに

消費者の皆さん　　こんにちは

私どもの魚沼コシヒカリを食べて頂き、有難うございます。いかがですか！

戦前の小作のなかでの厳しい農村生活、戦後は農地解放による一人前の百姓になり、政府の要請（国民の要請）により食糧増産に励んで、国民の食糧不足を解決してきました。

又、魚沼地方は雪が深く、農業以外に産業が少なく、出稼ぎの他は現金収入をあげる道が狭かったことが、稲作作りに営々と力を尽くして今日の基礎を築き上げたといっても過言ではありません。

魚沼地方は、稲作と出稼ぎの象徴的な存在として、国民の食糧の供給と都会への労働力の供給基地として、日本の発展を支えてきました。

又、魚沼地方は、豪雪による豊富な水資源に伴って、都会への電力と飲料水の供給、田園風景の緑による空気の浄化等、国民の生活と国土環境保全に多大な貢献をしてきています。

その反面、農業による所得は、賃労働者の6分の1程度しか成らず、労働力不足と、後継者難に陥っています。

1. 農政の課題

農業は政治による保護がなければ、困難になるのは歴史の教訓です。特に温暖化のもとでの異常気象での食料生産の低下で輸出入の永続性の困難性が露出。最近では、食糧と環境問題が国際的にも、全国的にも見直されつつあり、農山村地域の農地、山、水の果たす役割に注目が集まっています。自国民の食料は自国の大地から同時に、自然との関係での農業生産に対して、工場生産と同じコスト論での攻撃が強まっています。

農業の果たす役割を消費者をはじめ、全国的な共通認識とすることが、農業農山村地域を守る力です。

行政の無駄を省き、国民の主食を守り、自然環境への役割を果たしている農業への保護をするのは、政府の責任であるという全国的合意を早急につくる必要があります。

そういう全国的な運動の前進に期待を寄せながら、困難の中で魚沼コシヒカリを生産しています。

そういう意味でも、農協が全国民的な訴えをする努力の不足、一部政党ではなく、全政党へ訴える努力が不足していることは、残念なことです。又、全国民的に共通認識と問題意識を持つべき諸問題についての訴えが、不足している事も農業問題での全国民的合意を形成する上での弱点になっています。

2. 魚沼コシヒカリの良食味米としての地位の安定的確立の条件

最近魚沼コシヒカリが、商品として市場では高値になっていますが、その価格でも、農業生産を維持していくのは並大抵なことではありません。

第1は、効率的生産の為に圃場規模の拡大と、経営面積の拡大を目指す論調があることは、一面での「正論」であります。（しかしそれは、製造業と同じペースで考える場合）しかし、土地基盤整備による土壌と作土の破壊、大型機械による圃場の土壌の物理的性質の変質、収穫期の同一性、水の管理等、諸問題があり、良食味米の生産には事実上困難があります。

したがって、極端な大規模圃場ではなく、適正な面積での土地基盤整備→交換による圃場の効率化、作土と土壌を破壊しない畔抜き等＝を作業の効率化と田園風景の確保、良食味米の収穫とのバランスを確保したなかで行なうことが重要であると考えています。

第2は、地球環境、国土の保全、食糧の安定的確保という農山村と農業の果たす役割が改めて注目されています。

この2年間、食管法から新食糧法へと変化した中で、全国的にも新潟県でも、魚沼コシヒカリを除けば、大幅な価格の下落で全農山村の収入は激減しており、そのうえ米の輸入の為に減反の上乗せで収入の一層の激減で、営農意欲が衰退してきています。

専業農家としての適正規模での再生産の確保と、後継者が意欲を持つことのできる所得の向上なくして、農業や農山村地域を維持することはできません。

又、兼業農家にあっても、利益は小さくても機械の償却や賃労働者並の自家労賃の確保できることによって、後継意欲の向上が可能

になり、田園風景を守り農業の再生産を維持することが可能になります。

市場での「米」の価格の下支え機能と十分な備蓄を早急に政府の責任で行なう必要があります。

当面全国的に最低20,000円/60kgの確立を要求しています。この

市場での価格の下支えがあってはじめて厳しい環境の中で、魚沼コシヒカリの再生産に希望が持てる価格が安定的に実現し、農家の意欲も向上します。

*アメリカCIAの報告でも和食の健康維持についての効果が指摘されています。(成人病予防の観点から)

(1) では米は高いでしょうか

私どもの魚沼コシヒカリは28,000~30,000円/60kgで農協に出荷しています。消費者は、9,000円/10kg 54,000/60kg位ではないでしょうか(この中間マージンを農家へ還元して欲しいものですが)

4人家族の場合の試算(全食和食とした時)

米 1人1食70g×3食×4人=840g/日

54,000円÷60,000g/60kg=0.9円/g

840g×0.9円=756円/日 1人 189円/日

756円/日×30日=22,680円/月 1人 5,670円/月

例えば、月給250,000円の家族で、食費80,000円すると、米代金22,680円は28%で、基本的食生活をまかなえることを考えると高いのでしょうか?

(2) 和食の効用について—この点については別の機会に

- 1) 成人病の予防と効果
- 2) 副食による栄養バランス効果
- 3) 味覚と四季の感覚発達効果
- 4) 忍耐力と持続力の効果

3. 広瀬地区の地形と風土

(1) 典型的な中山間地

広瀬地区は破間川、和田川、小屋柄川、一ツ橋川、越又川に添った耕地の狭い谷地平野と砂礫台地で構成される典型的な中山間地域である。

(2) 豊かな高い山々と水量豊かな河川

①破間川と圃場に浄水をもたらす多くの雪を蓄積する山には、権現堂（海拔約880m）があります。

②和田川と圃場に浄水をもたらす山々には滝の又地区では、大松山（海拔約550m）、種須原の城山（海拔約508m）四方拝山（海拔約470m）があり、外山地区では福山（海拔約458m）外山高原（海拔約349m）鳥屋峰（海拔約680m）がある。小平尾地区では小平尾高原（海拔約384m）があり、親柄薬師（海拔約280m）へとつづき、破間川へと接続する。

③小屋柄川添えには、水沢高原（海拔約417m）芋川高原（海拔約359m）、越又川に添って越又高原（海拔約355m）上原高原（海拔約312m）があり、破間川へと接続する。

④一ツ橋川添えには、根小屋高原（海拔約357m）道光高原（海拔約304m）と上原高原があり、破間川へと接続する。

以上、記したように、広瀬地区は、破間川流域と破間川へ接続する3つの河川の流域にあり、それぞれの流域両側は海拔約312mから海拔約880mの山々で囲まれており、その積雪は4mから6mに及び、春の雪どけに清流となり浄水の恵みを圃場にもたらしてくれる。

この豊富な水資源が魚沼コシヒカリのうまい（良食味）要因の1つです。

A

また、山々に豪雪があることによって、春の山菜も豊富である。スキー場をはじめ、利雪の研究も進んでいる。

(3) 大豪雪地域ー雪の恵み

広瀬地区の耕地は、高い山々に囲まれた狭い河川流域にあり、破間川添えの海拔約120m（平場）から、海拔約337m（山地）までの広い範囲に広がっている。冬期は、平場で2m～4m、山地で3m～5mの積雪があり、大豪雪地域であり、米の単作地帯である。この山々と耕地の雪は、水資源として、飲料水、地下水、水田用水、水力発電等の役割を果たしている。魚

沼地方は、山々に囲まれた盆地であり、その雪は、北海道、東北、長野の雪と違って、一定の湿り気がある柔らかい雪である。

圃場の雪は、約4ヶ月におよび、虫や稲わら等を腐食させると共に、圃場の作土への緩慢な適度の水の浸透と作土への一定の温度の維持により、土壌の風化をやわらげている。この積雪による圃場の作土への影響も魚沼コシヒカリのうまい（良食味）要因の1つです。

B

(4) 日本全国まれな風土

魚沼地域ほど、四季が明確なところはない。そして、山紫水明の自然風景を形作っている。

冬季は、	1 2月	1月	2月	雪とスキー	白のイメージ
春期は、	3月	4月	5月	田植と山菜	新緑のイメージ
夏期は、	6月	7月	8月	コシヒカリの成長期	太陽と活力のイメージ
秋期は、	9月	10月	11月	収穫の時	黄金と紅葉のイメージ

とりわけ、魚沼コシヒカリの成長する夏期は、昼夜の温度差があり、水管理との関連の中で成長を促す。

このことも魚沼コシヒカリのうまい（良食味）要因の1つです。

C

4. 広瀬地区の土壌とコシヒカリ

気象条件・風土と共に、米の質に大きな影響を与えるのは、土壌であるといわれています。

(1) 広瀬地区の表層地質について

広瀬地区の表層地質は、外山地域で安山岩溶岩（AN）の中に、「砂礫・砂・泥」（gs3） 「砂礫・砂・泥・ローム」（Lgs） 「砂」（S）の表層がある。

他の広瀬地区は、河川の流域に添って、「砂礫・砂・泥」（gs1）（gs3）を主体とした未固結・半固結の河床堆積物、段丘堆

積物の表層地質である。

(2) 広瀬地区の土壌について一詳細は別図参照（農協生産課にあります。）

イ) 河川流域

- ①破間川流域では、上流からグライ土壌（TKO）褐色低地土壌（Ogn・Sb）粗粒褐色低地土壌（Ytg・Ngs）と粗粒グライ土壌（Ryu）
細粒グライ台地土壌（UtS）が主である。田中・雁坂下・並柳・東中
- ②和田川流域では、上流から両側に細粒グライ土壌（Nsh）と褐色低地土壌（Ogn）が主である。滝の又・外山・小平尾・和田
- ③小屋柄川流域では、上流から両側にグライ土壌（Tko）下流に来て、粗粒グライ土壌（Ryu）褐色低地土壌（Sb）が主である。
- ④一ツ橋川流域では、上流から細粒グライ土壌（Nsh）下流の破間川への接続近くに褐色低地土壌（Sb）が主である。

ロ) 河川流域以外の低地・台地

- ①栗山地域は、多湿黒ボク土壌（Kos・Knd）黄色土壌（Tan）黒ボク土壌（Og）と粗粒多湿黒ボク土壌（Tkn）が主である。
- ②金が沢・宮沢新田地域は、細粒グライ台地土壌（UtS）を主としている。
- ③小平尾平は、粗粒多湿黒ボク土壌（Tkn）と多湿黒ボク土壌（Knd）と細粒グライ台地土壌（UtS）が主である。
- ④雁坂下の破間川段丘の平場は、粗粒褐色低地土壌（Ytg）を主として鉄道付近は、グライ土壌（Tko）と細粒グライ土壌（Nsh）褐色低地土壌（Sb）がある。
- ⑤並柳の平場では、国道の東側は、多湿黒ボク土壌（Fki）、国道西側は、多湿黒ボク土壌（Knd）が主である。
- ⑥田尻・山口地域は、県道より西側、黒ボク土壌（Og）東側、多湿黒ボク土壌（Fki）中学校付近は、細粒グライ台地土壌（UtS）が主である。
- ⑦東中地域の平場は、細粒グライ台地土壌（UtS）を主として黄

色土壌 (T a n) が少しある。

(3) 以上のように広瀬地区の土壌は、褐色低地土壌 (O g n . S b . Y t g . N g s)、黄色土壌 (T a n)、グライ土壌 (T k o . N s h . R y u)、グライ台地土壌 (U t s . Y a m)、黒ボク土壌 (O g .

M y)、多湿黒ボク土壌 (T k n . K o s . K n d . F k i)、山地では、褐色森林土壌 (N i g 2 . O g i 2 . N i g 3 . H r n) と大きくわけられる。

広瀬地区の農業の先人たちは、試行錯誤の中でこの土壌の弱点を解明し、補強しつつ、稲刈りに豪雪地域で単作の中で血と汗の苦勞をして、今日に引き継いできている。

この先人たちの土壌改善の努力 (それは魚沼地域の貧困からの脱却、あるいは現金収入を目指す努力でもあった) も、魚沼コシヒカリのうまさ (良食味) の大きな要因の1つです。

D

(4) 環境保全型農業と日本一おいしい魚沼コシヒカリ

今日改めて科学的に土壌を分析し、より良食味米の魚沼コシヒカリを生産するべき努力がつつけられている。

すなわち環境にやさしいコシヒカリ作り (無農薬、低農薬) と有機肥料によるコシヒカリ作りを目指して、農協と農家の努力が始まっています。

①環境保全型農業を推進するためには、窒素やりん酸等の環境汚染物質が農業外へ排出される量を抑制しながら、作物生育を保證することが重要である。

そのためには、作物の養分吸収効率を向上させ、少ない肥料成分で、作物生育を行なわせることが必要である。ここに土壌分析の重要な意味と役割がある。

②その上にたつて、施肥量を考慮する事が必要である。施肥を増加させると最高収量に達し、それ以上施用しても収量に変化がない領域がある。

これが最大収量域である。(従来 of 収穫)

これに対して環境保全型は、最大収量の80~100%の領域にはいる施肥設計を行なうことである。10a当り (1反歩) 8俵 (480kg) は目標とすることも、うまい (良食味) の要因の一つである。

E

③有機肥料と有機栽培による土壤に蓄積した窒素は、無機化して地力をつける。しかし5年以上の連投をすると地力窒素の発現量の蓄積が窒素過多をもたらし、食味（糖の蓄積が抑制され）の低下をまねく。

この有機肥料と土壤（地力）に基づく施肥設計管理の良し悪しもコシヒカリのうまい（良食味）要因の1つである。F

5. 特別栽培米の施肥設計の例示

この地域は河川流域と山地の狭はんの耕地で、アメリカのような広大な土地と違って、粗放農業による収穫は困難です。狭い耕地の中で土壤分析し、土壤改善を施し、一定の生産をあげながら、良食味の安全な米づくりをしなければなりません。したがって、安全な化学肥料の使用は最低限必要であります。

(1) 土壤改善と土壤改良資材の必要性

魚沼地方は真実の意味において、完全な有機栽培は趣味的栽培は可能であるが、安定的に収穫し、消費者に供給するためには不可能に近い。

環境破壊の要因は、有機肥料、化学肥料を問わず、窒素やりん酸などの環境汚染物質が農業外（排水路と地下浸透）へ排出される量が多いことにあります。

土壤改善においては、堆肥の投入と最低限の化学肥料の組合せによる安全な土壤成分の圃場をつくることを目指しています。

広瀬地区の農業の特別栽培米（低農薬、減化学肥料、有機質投入）の圃場での一般的な土壤改良資材は、土壤分析によって次の資材を使用している。

《土作り》

- ・ケイカル（化学肥料）ケイ酸 60 kg / 10 a
- ・フトール3号（植物性有機質 100%）N 2.2 kg.
P 1.28 kg. K 0.2 kg / 10 a
- ・堆肥 1,000 kg / 10 a N 2.73 kg / 10 a

* 苦土重焼燐（化学肥料）リン酸の極端に少ない圃場のみ必要
P 40.8 kg. ケイ酸 24 kg / 10 a

*消石灰（化学肥料）酸性の圃場のみ必要

○当圃場No. 1

- ・ケイカル ケイ酸 64kg/10a
- ・フトール3号 N2.52kg.P1.2kg. K0.18kg/10a
- ・堆肥 N2.73kg/10a

計(N5.25kg.P1.2kg.K0.18kg.ケイ酸64kg)/10aを投入している。

○当圃場No. 3

*堆肥 昨年投入今年はなし

*ケイカルは1年毎の輸番で投入

- ・フトール3号 N2.35kg.P1.37kg.K0.21kg/10a

計(N2.35kg.P1.37kg.K0.21kg)/10aを投入している。

○当圃場No. 7

- ・ケイカル ケイ酸 68kg/10a
- ・フトール3号 N2kg. P1.16kg. K0.18kg/10a
- ・苦土重焼燐 P32.45kg. ケイ酸19.1kg/10a
- ・堆肥 N2.73kg/10a

計(N4.73kg.P33.61kg.K0.18kg.ケイ酸87.1kg)/10aを投入している。

(2) 施肥量（元肥・追肥）

毎年、施肥設計と施肥量を記録し、食味計のデータと土壌分析の結果に基づき投入する。

穂肥は、収量の拡大には有効であるが、良食味栽培においては、疑問があるので投入しないことにしている。

○圃場No. 1

元肥 ∂有機586（有機質80%）

(N2.67kg. P4.27kg. K3.2kg) / 10a

追肥 ケイ酸加里 (K8kg. ケイ酸12kg) / 10a

計 (N2.67kg. P4.27kg. K11.2kg. ケイ酸12kg) / 10aを投入

○圃場No. 3

元肥 ∂有機586（有機質80%）

(N2.67kg. P4.27kg. K3.2kg) / 10a

追肥 ケイ酸加里 (K5.33kg. ケイ酸8kg) / 10a

計 (N2.67kg. P4.27kg. K8.62kg. ケイ酸8kg) / 10aを投入

○圃場No. 7

元肥 ∂有機586（有機質80%）

(N3.18kg. P5.09kg. K3.82kg) / 10a

追肥 ケイ酸加里 (K9.09kg. ケイ酸13.64kg) / 10a

計 (N3.18kg. P5.09kg. K12.91kg. ケイ酸13.64kg) /10aを投入

(3) 圃場に投入された主要な成分

土壤改良資材と施肥量の合計

研究によれば、10a当りの窒素量は雨水で0.64kg. 用水で1.53kgが圃場に流れ込み、それに肥料A _____kgが、水田土壤に入ってくる。

また出ていく窒素量は、

イネ吸収A _____×0.8 = _____kg、
排水路や地下浸透にA _____×0.13 = _____kgの収
支計算が、概略成り立つと言われている。(水田の環境浄化機能を
示している)

○圃場No.1

(N4.75kg. P5.46kg. K11.38kg. ケイ酸76kg)
/10a

○圃場No.3

(N5kg. P5.63kg. K8.75kg. ケイ酸8kg) /10a

○圃場No.7

(N7.9kg. P38.7kg. K13.kg ケイ酸100.9kg) /
10a

* 窒素量の収支計算 圃場No.1

収入 雨水0.64kg+用水1.53kg+肥料4.75kg
= 6.92kg/10a

－支出 イネ吸収3.8kg+排水地下浸透1.62kg
= 4.42kg/10a

水田の環境浄化機能による窒素の土壤吸着

= 2.5kg/10a

(4) 土壤分析による施肥設計特別栽培米の食味計による評価

食味に影響するのは、とりわけタンパクの含有量だと推定され
ている。

またその数値と実際の味覚によるデータは、相関関係にあること
を示している。「食味研究学習メモ参照 (覚張)」

年度	圃場No.	検査機名	品質評価	備考
平成6年	No.7	ケット	82.5	

平成7年	No. 3	ケット	83.0	特別栽培米 コシヒカリ
平成8年	No. 1	ケット	83.0	
平成9年	No. 1	静岡	85.0	
	No. 3	静岡	89.0	
	No. 7	静岡	84.0	
	中島	静岡	82.0	一般コシヒカリ

6. 魚沼コシヒカリのうまい（良食味） 6つの要因

－私見によるまとめ－

- | | | |
|-----|---------------------------------|---|
| 第1. | 高い山々と積雪による河川流域耕地への豊富な水資源 | A |
| 第2. | 豪雪地帯で一定の湿気を持つ積雪が及ぼす圃場の作土へ
影響 | B |
| 第3. | 稲の成育する夏期の昼夜の温度差（日較差）が大きい | C |
| 第4. | 先人たちの土壌改善の努力により、やせ地から壤地へ | D |
| 第5. | 最大収量ではなく、80%収量を目指している。 | E |
| 第6. | 有機肥料と施肥設計管理の成功 | F |

以上のように魚沼コシヒカリがうまいのは第1（A）第2（B）第3（C）の要因は、魚沼地区の地形・風土によるものであり、第4（D）第5（E）第6（F）の要因は、農業にたずさわる人々の努力の賜物です。

豪雪単作地帯での、地形・風土を活用して、日夜努力を続けてきた先人達に心より敬意を表するものです。

同時に凶作・不作・との関係は、異常気象（長雨による日照不足・干ばつによる水不足・台風冷害等々）によるものが大きく影響します。長い経験による対策にて一定の効果は可能ですが、影響をまったく受けたい対策は困難であります。歴史を振り返っても、不作・凶作は時々自然の強力として全国的にも私達の地方にも襲ってきます。

この結果、農家に決定的な打撃を与えると共に消費者へのコシヒカリの供給が困難になります。これが全国的ですと食糧不足になってしまいます。

平年作の時でも凶作になったときでも、農業にたずさわる人々が意欲を持って次年への取組みができるような生産費と労賃の保証をする生産者価格の確保と、消費者が安定的に供給を受けられる政府

の責任による十分な備蓄制度の確立が、おいしい魚沼コシヒカリ作りに安心して取り組める前提であると考えています。

7. 広瀬地区の特別栽培米は環境にやさしく安全な低農薬農業

- ①多国籍企業の農産物の輸出入の自由化を目指したWTO協定は、日本の食品衛生基準を大幅に改悪させ、コーデック基準に近づけさせた。例えば、米に関する残留農薬基準は次のように改悪されている。

農薬品	日本の基準	日本の新基準	コーデック基準	改悪率C/A
マラチオン	ND	0.1ppm	8 ppm	80倍
クロルプロファム	ND	0.05ppm	制限なし	
フェニトロチオン (スミチオン)	ND	0.2ppm	10 ppm	50倍
クロルピリ ホスメチル	0.01ppm	0.01ppm	0.1 ppm	10倍
フェンチオン	0.05ppm	0.01ppm	0.1 ppm	2倍

- ②しかし、広瀬地区農家の特別栽培米の農薬の使用状況は、除草剤1回を原則としている。圃場No. 1 No. 3 No. 7を施肥設計で提示したが、その圃場の使用農薬は次の通りである。

・バトル1kg/10a剤のみである。

成分表示	安全性
メフエナセット	検出しない

- ③また、稲の成長期に高温多湿の広瀬地区は、天候の不順が厳しいときは、病害虫が発生する危険があり、収穫と食味に重大な影響がある場合がある。

その場合は、消費者団体と連絡のうえで次の農薬の使用の許可を得て実施する。

- ・いもち予備農薬 オリゼメート
- ・イモチ抑制農薬 フジワン（オリゼメートの使用で防止されたときは、使用しない）

- ・いもち治療農薬 ー最も安全なものを指示する。
(農協営農指導員)
- ・その他病外虫 ー最も安全なものを指示する。
(農協営農指導員)

④特別栽培、魚沼コシヒカリ玄米の残留農薬の検出結果について
当圃場No. 1 No. 3 No. 7をはじめ、全圃場が特別栽培米である。使用農薬は、バトル 1 kg剤のみ。他の農薬は使用なし。参考として輸入米との比較で検査。

平成 9 年産玄米検査

	特別栽培米	日本基準	(参考) 輸入米の検出
バトル 1 kg剤 (メフェナセット)	N D 検出しない	0.05	
オリゼメート (プロベナゾール)	使用しない	0.05	
フジワン (イソプロチオラン)	使用しない	0.05	
マラチオン (使用なし) 参考	N D 検出しない	0.01	0.013 ~ 0.04
クロルプロファム (使用なし) 参考	N D 検出しない	0.01	
フェニトロチオン (使用なし) 参考	N D 検出しない	0.2	0.01
クロルピリ ホスメチル (使用なし) 参考	N D 検出しない	0.01	0.005

検査機関名 (財) 新潟県環境衛生研究所

検査結果は、特別栽培米検査証明環研 1 K 第 8 4 8 号 別添付

⑤真実の意味において、稲作は無農薬で栽培は可能か

アメリカの輸入農産物で「有機無農薬栽培」と言われている農産物(大豆)をOCIA認証団体が認証したものから、農薬が検出されたり、アメリカ国内で無農薬ではないと詐欺罪として告訴されたりしている「有機無農薬栽培」の現状です。

日本のモンスーンの風土と天候の状況により、稲体の成育が変化

する中で、かつ趣味的でなく、米の安定的収穫と供給を維持するためには、消費者と連絡を密にして安全な農薬を最低限使用することが不可欠であると考え。またそれを表示することが重要であると考え。

広瀬地区の農家は、最小限必要な農薬を日本の残留農薬基準より厳しく管理し、使用しているものであり、海外の「無農薬食品（米）」より安全であることを確信している。

⑥特別栽培米は、栽培管理のなかでの低農薬であり、収穫後の農薬は一切使用していない。輸入米は、栽培管理中の農薬の使用有無の確認はできない上、収穫後の農薬（ポストハーベスト）の使用は確実である。

8. 「無農薬、有機栽培」の表示は適切か

－栽培方法の確立と公表こそ重要である－

(1) 栽培の実態と表示は、一致しているのか

今日、趣味的な栽培面積しかできなく、少量の収穫しかできないものが、大量に「無農薬、有機栽培」として出回っている。有機栽培は、化学肥料を一切使用しないという。

政府はこれを認証、真実たらしめようとしているが可能であるのか、生産者団体・消費者団体も疑問を投げかけている。

魚沼コシヒカリでも市場では、生産量の20倍の量が出回っていると言われていている。偽魚沼コシヒカリ、ブレンド魚沼コシヒカリなど、商系の米ビジネスとして流通しており、本物とどう区別するのか。

また、「無農薬、有機栽培」の認証で先進国と言われているアメリカでも、その農産物が嘘であると詐欺罪で告発されているような状況です。アメリカの認証団体であるOCIAも区別することが事実上不可能であると認めている。

すべてが売らんが為の表示になっている。「無農薬、有機栽培」では、市場に十分な量が出回るはずがないと考えるほうが自然である。

自然との関連の中で、真実の意味において栽培方法を明示し、安全で良食味の米を安定的に供給するという農協、農家の哲学を確立し、消費者と共にあゆみ、また、消費者に守られる方向を目指す－これが広瀬地区農家の特別栽培米－事が重要である。

(2) 広瀬地区農家の特別栽培方法の基本的考え方と表示

広瀬地区の農協と農家は、低農薬と減化学肥料、有機質投入栽培—これを特別栽培米という—を土壌と気候の関係の中で、消費者と連絡を取りながら、安全、安定、良食味米を目指しています。

広瀬地区の農協と農家の特別栽培米は、土壌分析により、土壌改善には安全な化学肥料資材も最小限に使用し、肥料には可能な限り有機質の肥料を使用し、農薬も安全で最小限の量を事前に明示して使用することを基準としています。

嘘の表示より長年の農協と農家の知恵を発揮しながら、魚沼地方の自然風土に適した栽培方法を消費者と連絡を取りながら、真実を明示することにより、相互の信頼が高まってくものと確信しています。

9. 消費者へのメッセージ

日本の農業を守ることは、農山村地域を守ることであり、災害から国土を守ることであり、水資源を守ることであり、大気汚染を防ぐことにも密接な関係があります。

日本の国民は、歴史的に本籍で見ると農山村地域（農家あるいは百姓）出身、現住所は様々だと思います。

食糧を生産する人、食糧を消費する人、との関係では、一見相対しますが、狭い国土の中で、自然との格闘の中で共生していくためには、対話し、交流し、農業・農山村地域の果たしている国民的役割とそれにたずさわっている人々の辛苦を理解して頂き、新しい農政の確立を共同の力で進めることが必要だと考えています。

魚沼地方の広瀬地区の農家の人々が、経済的にも肉体的にも苦勞して作り上げてた魚沼コシヒカリをどうぞご賞味下さい。魚沼コシヒカリを通じて大企業本位の政治ではなく、明るい国民本位の政治を実現する共同の歩みの契機になれば幸いです。

ご健康をお祈りすると同時に、対話と交流を楽しみにしています。

